

宮之城町の半世紀を振り返る

本町が誕生して50年の間に、様々な施策や出来事を経て成長・発展を続けたあゆみを紹介します。今回は、昭和45年、昭和49年までの主な出来事を振り返ります。

◇昭和45年4月

宮之城中学校が開校

旧宮之城中学校、佐志中学校、紫陽中学校、鶴宮中学校を統合して新宮之城中学校が開校した。

新校舎が完成するまでは、旧宮之城中学校を仮設校舎としたが、6教室不足していたので、プレハブ校舎を建設し、生徒の授業に支障がないようにした。また、統合によって通学距離が遠くなる片道6km以上の自転車、バス、汽車通学者に対して通学費補助が支給されるようになった。

◇昭和46年3月

佐志小屋内プール施設完成

佐志小学校に屋内プール施設（上屋設備）が約360万円かけて完成した。

同プール施設の完成により、冬でも水温が23℃前後で、1年中練習ができたので、「水泳宮之城」の中心の場として大いに利用された。

◇昭和47年1月

第1号の信号機が設置

交通渋滞を緩和し、事故を1件でも少なくするために、町で第1号の定周期式信号機が虎居町十字路に設置された。

◇昭和47年3月

さつま農業協同組合が発足

県下広域合併第1号として宮之城町農協、鶴田町農協、求名農協、永野農協、中津川農協、祁答院農協が合併し、組合員7,126人の大型農協が発足した。

初代組合長には、旧宮之城町農協組合長の神園 貢氏が就任した。

◇昭和47年7月

川内川の大洪水

川内川の大洪水により宮之城温泉街が流失し、140所帯の家を失ったほか、川原町、虎居馬場などで大きな被害が出た。
国民宿舎さつま荘も洪水により被害を受けた。



大きな被害を受けた川原町

◇昭和48年10月

祁答院広域文化センターが完成

宮之城町、鶴田町、薩摩町、入来町、祁答院町の5町が、共同で新しい近隣社会づくりと過疎対策を目的とした、祁答院広域文化センターが完成した。

総工費は約2億7千6百万円だった。

◇昭和49年4月

交通少年団結成

事故防止対策の一環として、子どもに正しい交通ルールを身につけさせ、地域への交通安全に対する意識の向上を図ることを目的として、九州地区では初めての交通少年団が結成された。

交通少年団は、屋地上町・仲町の小学校4、6年生の男女14人で編成された

宮之城町50周年記念「キャッチフレーズ」決まる

町民の皆様に宮之城町50周年の統一したイメージをもっていただくため、5月にキャッチフレーズの募集を行いました。その結果、キャッチフレーズは下記のとおり決定しましたのでお知らせします。

キャッチフレーズは、町の刊行物や記念事業などに使用します。ご応募をいただいた皆様、誠にありがとうございました。

◆キャッチフレーズ

未来へ向かって翔ばたけ宮之城